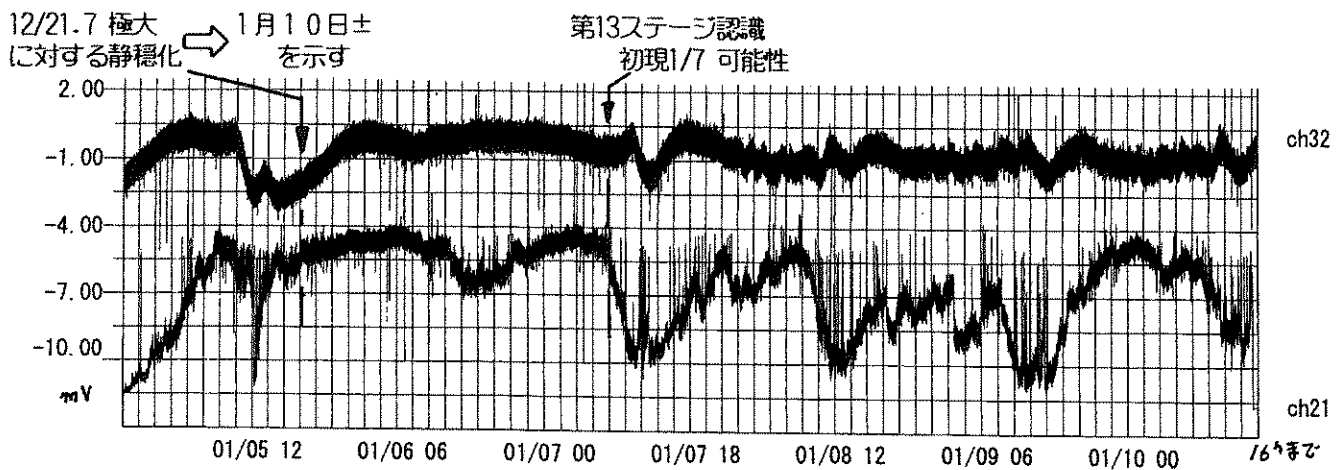
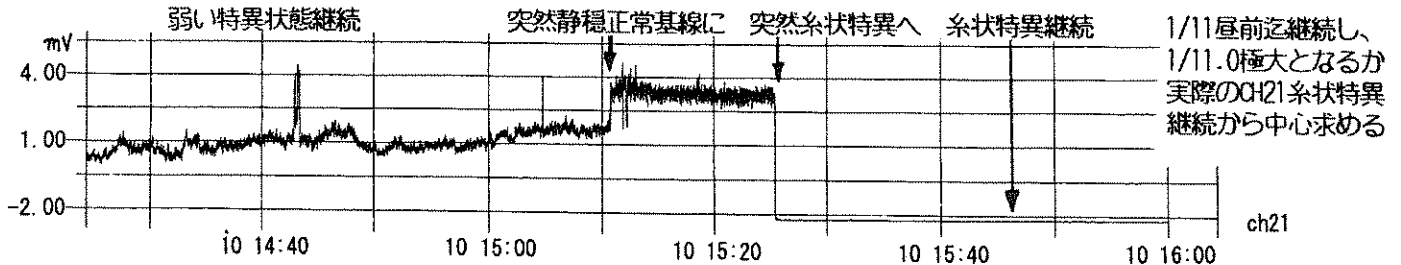


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 現況報告 CH21が突然通常基線に復帰、直後に糸状態へ



No.1778前兆は、現状第12行-7で、12/21.7 極大認識に対し、1/5 終息、主極大12/21.7 副極大12/26.5 でTmap:Tps=4:1近似等から01月10日±or11日±の可能性が示唆されていました。

しかし、CH21の基線に01月07日より特異状態が出現し、同期する様にCH32に振動型BFが出現しています。この変動は上基線のとおり継続しています。当該前兆が直前特異の可能性もあると考え、変化を観ておりましたが、一番上の基線のとおり、本日、CH21が15時10分頃、突然、基線幅も基線電圧値も正常の完全な正常基線に復帰しました。ところが、15分後に今度は糸状態となり、現在継続しています。この状況変化から、最近のCH21前兆が直前特異であるとする認識は誤りである可能性が有。

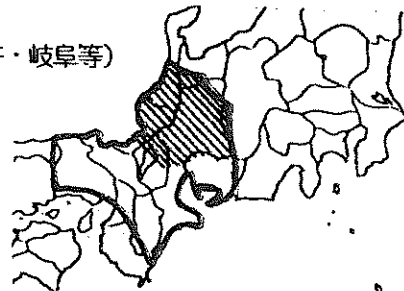
上の下側基線(CH21, CH32) を見ますと、本日もCH32に弱いですが振動型BFが見えます。本日CH21が突然短時間でも正常基線となったのは不明ですが、本日夕刻より完全な糸状態特異とな

12/11.0初現 — 12/21.7極大 Tfap:Tmap=20:13 ⇔1/10±
12/21.7極大 — 1/5.5 終息 Tmap:Tpp=6:1 ⇔1/10±
12/21.7極大 — 12/26.5副極大 Tmap:Tps=4.3:1⇔1/11.3±
(直前特異は誤りである可能性があるため省略)

ったことは、特異状態としては最高値であり、最近ではなかったことからピーク認識されます。上は第12行-7の変化から1/10 or11日が示される関係です。1/11±が発生なら、現状の変化は理解しにくい状況です。本日夕刻からのCH21糸状態が明日未明もしくは明日一日継続し、1/10夜~1/11.0が極大となる可能性も十分考え易い状況です。その場合、1/11極大(第13行-7)の初現は、上波形状のとおり、1/7 である可能性が示唆されます

1/7.0初現 — 1/11.0極大 である場合 ⇔ 01月18.4日±

- ◆推定領域: 右図 太線領域=大枠推定域
- ※斜線域=可能性が考え易い推定域(石川・福井・岐阜等)
(影響局誤認の場合は東北⇐可能性低い)
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期: 1/11±に極大が観測された場合は、01月18日±が計算される。
(※但し実際の極大変化を観測した後、修正)



- ◇推定地震種: 震源が浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻: AM09:00 ± 1 (or PM6:00 ± 3) 但し前震発生の場合は無効。
- ※解析間違いで推定内容と異なる地震発生の場合は深くお詫び申し上げます。

1/7 初現、1/11 ±極大となる場合は Tfap:Tmap=20:13 経験則より上記のとおり、01月18日±が示唆されることとなります。

本情報の認識理解が正しい場合は、一兩日中の発生の可能性は否定できません。1/11 ±にCH21糸状特異が極大となるか、実際に観測し、本認識が正しいか確認し、続報したいと考えます。

※好意で運営して下さっているHP管理者の方の都合で1/11夜まで本情報はアップされない可能性有。観測情報は、1/10 17:20に配信済。